福岡県スクールカウンセラーの皆様

この度は研究のご協力のアナウンスの機会を頂きありがとうございます。
久留米大学小児科の山下大輔と申します。現在久留米大学で小児の心身症を専門に診療をしております。

現在、臨床上しばしば経験される「治療や支援が停滞するポイント」を整理するための予備的研究を計画しています。

日常臨床では、「本人は理解しているように見えるのに変化につながらない」「面接の中ではできるが日常場面では崩れる」「一度良くなっても続かない」といった場面にしばしば遭遇します。本研究では、こうした治療停滞を患者さんや治療者の失敗としてではなく、「どの変化条件が現在使いにくくなっているか」という観点から 6 つの治療停滞タイプに整理し、臨床家が短い架空事例からそれらをどの程度識別できるかを検討します。

ご協力いただく内容は、架空の短い臨床ヴィネットを読んで、各事例で最も当てはまる治療停滞タイプを選んでいただくものです。実在患者の情報は含まれません。所要時間は約 25〜30 分を想定しています。回答に際して職業や経験年数などの属性情報は収集しますが、個人を特定できるような情報は収集せず、集計結果のみを解析することとしております。成果は論文化や学会発表に使用する予定です。

この調査は研究目的のものですが、回答を通して、ご自身の症例に対して、治療や支援が停滞したときに「どこで変化が止まっているのか」を整理する機会にもなるかもしれません。
臨床経験のある先生方の率直なご判断をいただけますと大変ありがたく存じます。

ご協力いただける場合は、以下のフォームよりご回答ください。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeetSvu2gY8Ui99NL90SGaBHgK5X4GqAAwBVxTiGYgwApgE6w/viewform?usp=header

回答の際には、添付した資料「6 つの停滞タイプ」を見ながらお願いします。
併せて、研究に関する説明文書も添付いたしますのでご参照ください。
なお、この研究は久留米大学医に関する倫理委員会の承認を受けて実施していることを申し添えます。

ご質問等あれば遠慮なくご連絡ください。また、受けてみた後のご意見も大歓迎です。
皆様のご意見が今後の研究にも繋がりますので、是非ともご協力をお願いします。

それではどうぞよろしくお願いいたします。

久留米大学医学部 小児科学講座
助教　山下 大輔
（小児科専門医、子どものこころの専門医/認定医、漢方専門医、小児神経専門医）
Email：yamashita_daisuke@kurume-u.ac.jp